

学校教育目標

- ◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成
- ◎広い視野を持ち、地域社会の形成にすすんで参画できる生徒の育成

食品化学科

笛吹高校の3年間で身に付けてほしい力

- 学習習慣の確立（書く力・表現する力）
- 課題解決能力の向上
- 自己実現力
- 地域社会と連携できる力

1年次の目標

- ①学習習慣の確立を図り、基礎基本の知識・技術を習得する。
- ②明確な進路目標の下、インターンシップに取り組み、オープンキャンパスに参加する。

2年次の目標

- ①課題解決能力を涵養するために自ら課題を設定し、計画し、情報を収集する中で課題解決に向け取り組む。その過程でイメージする力、コミュニケーション力を向上させる。
- ②進路実現に必要な資格取得に取り組む。

3年次の目標

- ①明確な進路目標の下、堅実に自己実現を果たす。
- ②笛吹市、山梨学院短期大学との包括連携を活用し、学習成果の深化を図り地域社会に視野を開く。

学ぶ皆さんへの助言・アドバイス

授業（座学、実験実習）に臨むときに必ず教科書等を使って予習をして下さい。予習をして受ける授業は、理解する感性が全く異なります。また、予習をした際に理解できなかった点を意識して授業を受けると「ああ！なるほどそうだったのか」と腑に落ち記憶に強く残ります。それでも理解できなければ先生、友達に訊いて下さい。友達は教えることにより、一層学習内容の理解を深めることとなります。授業中は、先生の話・表情に集中します。特に実験実習は、危険を伴ったり、一瞬の変化を見逃さないための集中力が必要です。その体験が魅力的なノートやレポート作りに活かされます。また、是非覚えてほしいことは、『今未来手帳』にメモしたり、付箋に書いて直ぐに取り出し確認してみてください。授業後のノートまとめにも時間を十分掛けてオリジナルノート作りを楽しんで下さい。その掛けた時間が記憶にも大きく左右します。

	教科	科目	
1	国語	国語総合	
2	地理歴史	日本史A	選択
3	地理歴史	地理A	選択
4	数学	数学I	
5	理科	化学基礎	
6	保健体育	体育	
7	保健体育	保健	
8	外国語	コミュニケーション英語I	
9	外国語	英語表現I	
10	家庭	家庭基礎	
11	農業	課題研究	
12	農業	農業情報処理	
13	農業	食品製造	
14	農業	食品化学	
15	農業	微生物利用	

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		国語 国語総合		単位	2	履修区分	○ 必修 ・必修・選択	
対象学年・類型・コース		2年 食品化学科・果樹園芸科						
使用教科書		『新編 国語総合 改訂版』大修館書店(国総347)						
副教材		カラー版 新国語便覧(第一学習社)						
目標とする 生徒の将来像		将来社会に出て必要とされる基礎学力を身につけるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。						
評価の観点		①【関心・意欲・態度】国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 ②【話す・聞く能力】目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。 ③【書く能力】相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。 ④【読む能力】文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 ⑤【知識・理解】伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己 評価			
1 学期	第1回定期試験	・ペンギンはなぜ一列にな って歩くのか?	・自然や生物に関する文章に慣れ 親しむ姿勢 ・論理の展開をたどり、筆者の主 張を正確に読み取る力	④ノート・発言 ③作文 ④定期考査 ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C A B C			
	第2回定期試験	【古文】 ・『枕草子』春はあけぼの ・『伊勢物語』芥川 【現代文】 ・短歌・俳句	・日本の伝統文化としての和歌 や短歌を鑑賞し、独自の技法を 学ぶ ・ことばや表現から作品世界を 深める想像力	⑥音読 ③短歌・俳句作品 ④定期考査 ②グループワーク ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C A B C			
2 学期	第3回定期試験	・コルベ神父 ・崖	・修学旅行を前に、いのちと平和 について考える姿勢 ・ことばで自分を表現する力	①授業態度の観察等 ③作文 ④定期考査	A B C A B C A B C			
	第4回定期試験	【漢文】 ・故事 ・史話 【現代文】 ・鏡	・漢文訓読のきまりにしたがっ て、漢文を正確に書き下し、内容 を読み取る力 ・物語のおもしろさを味わう姿勢	⑤音読・小テスト ④プリント・定期考 査 ②グループワーク ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C A B C			
3 学期	第5回定期試験	【現代文】 ・何のために「働く」のか 【古文】 ・奥の細道 旅立ち	・自らの職業観について見直す姿 勢 ・すぐれた俳文を読むことで古典 への興味を養う。 ・自分の生き方について考える	④ノート・発言 ④定期考査 ③作文 ⑤音読・小テスト ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C A B C A B C			
検定資格(時期)		漢字能力検定を年に3回、校内で受検できる機会を用意する。(8月・12月・2月) 受検費用は級に応じて2000～4000円)2級に合格した場合は「国語総合」に1単位 増単できる。						
履修にあたって		1年次から継続しての科目である。1年次で習得した知識や考え方をもとにして、自分の生き 方とつなげて考える姿勢をもってほしい。そのためには、漢字や文法、語彙の知識は必須で ある。今年度も漢字テストを行うので、丁寧に、投げ出さず、全回合格を!						

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		日本史A	単位	2	履修区分	必履修 ・ 必修 ・ 選択	
対象学年・類型・コース		1年普通科 2年普通科(選択者) 食品化学科・果樹園芸科(選択者)					
使用教科書		高等学校改訂版 日本史A～人・くらし・未来～(第一学習者)					
目標とする生徒の将来像		我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					
評価の観点		①定期試験 ②授業中の関心・意欲・態度・発問の観点等 ③単元ごとに実施する小テストなど					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価		
1 学期	第1回定期試験	第1章 近代国家の形成と国際関係の推移 第1節 近代への胎動	・江戸時代の日本の対外関係について理解する。 ・近世後半の産業、教育や学問・思想などの発展について理解し、さらに、これらが近代文化の基盤となったことを理解する。	定期試験 ノート提出			
	第2回定期試験	第2節 明治維新 第3節 近代国家の確立	・明治政府の初期の諸政策によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。 ・明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し、自由民権運動が起こり、国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る、一連の動きを理解する	定期試験 ノート提出			
2 学期	第3回定期試験	第2章 近代産業の発展と两大戦をめぐる国際情勢 第1節 近代産業の発展と社会運動の展開 第2節 国民生活の変化と文化	・日清・日露戦争の過程で、日本に産業革命が起こり、資本主義が確立したことを理解する。 ・資本主義の発展によって産業構造が変化し、これにともない、都市における貧民問題や労働問題など、さまざまな社会問題が発生したことを理解する。	定期試験 ノート提出			
	第4回定期試験	第3節 第一次世界大戦と日本 第4節 第二次世界大戦と日本	・第一次世界大戦に日本が参戦した意図、また第一次世界大戦を通しての日本の外交方針について理解する。 ・中国・アメリカを中心とした国際関係の変化にも着目しながら、太平洋戦争に至る過程を理解する。	定期試験 ノート提出			
3 学期	第5回定期試験	第3章 現代の日本と世界 第1節 日本の再出発 第2節 独立後の政治と対外関係	・第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策、民主化の諸改革の内容について理解する。 ・主権回復後の日本の国内的な政治の推移と、新しい外交関係の確立の動きについて理解する	定期試験 ノート提出			
検定資格(時期)		特になし					
諸費用(予定)							
履修にあたって		ただの暗記教科ではなく、「なぜ？」という歴史的な疑問を持って授業に臨むことが大切である。歴史が苦手な生徒でも、授業内での間に積極的に答えることで、苦手を克服することができる。					

教科・科目	地理歴史・地理A	単位数	2	必修修	必修 選択
学年・系列・コース	2年 普通科(選択)・食品化学科(選択)・果樹園芸科(選択)・総合学科				
使用教科書	高等学校新地理A・新詳高等地図	副教材	なし		
目標とする生徒の将来像	現代世界の抱えるさまざまな課題を地理的に考察・探求し、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。				
評価の観点	①授業中の関心・意欲・態度、発問に対する思考・判断(10%) ②まとめプリントやノートの作業・整理状況などの表現・処理(10%) ③定期考査による知識・理解(80%)				
学期	単元・教材	主たる目標・つけたい力		評価の観点	
1 学期	1部 ・1章 地球儀や地図からとらえる現代社会 1節 地球上の位置と国家 2節 グローバル化が進む世界 ・2章 人間生活を取り巻く環境 1節 生活に影響を与える環境条件とは 2節 人々の生活と地形 3節 人々の生活と気候	・地球の運動と時差について理解できる。 ・グラフや地図等を作成し、世界の結びつきの変化を理解する。 ・球面上の世界観から世界の諸地域をとらえることができる。 ・自然環境と人間生活の関係について理解する。 ・大自然の地域と都市との環境の違いについて理解する。 ・地形からどのような特徴が読みとれるか理解し、防災 対策まで考える。 ・気候の特徴を学習し、どのように気候が生活に影響しているか 理解し、食事や住居の特徴について考える。		①②③	
2 学期	4節 人々の生活と産業 5節 人々の生活と文化 ・3章 世界の諸地域の生活・文化 1節 中国の生活・文化 2節 韓国の生活・文化 3節 東南アジアの生活・文化 4節 インドの生活・文化 5節 中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化 6節 サハラ以南のアフリカの生活・文化 7節 ヨーロッパの生活・文化 8節 ロシアの生活・文化 9節 アメリカ合衆国の生活・文化 10節 ラテンアメリカの生活・文化 11節 オーストラリアの生活・文化	・異文化を理解する目を養う。 ・各国の産業・生活・文化について理解する。 ・それぞれの国の産業の変化についての要因について考えることができる。 ・多民族・多文化の共生の行われている地域についての 諸問題について理解できる。 ・隣国の人々の生活・文化について理解できる。 ・隣国との交流や歴史についてさまざまな側面から考えることができる。		①②③	
3 学期	4章 地球的課題と私たち 1節 複雑にからみ合う地球的課題 2節 世界の環境問題 3節 世界の資源・エネルギー問題 4節 世界の人口問題 5節 世界の食料問題 6節 世界の都市・居住問題 2部 1章 身近にあるさまざまな地図 2章 日本の自然環境と防災 3章 身近な地域の課題と地域調査	・地球規模で発生しているさまざまな課題の解決策や対応方法を理解できる。 ・主に先進国で発生する課題と発展途上国で発生する課題の共通点や相違点、それらの影響について理解できる。 ・環境破壊が私たちの生活にどのような影響を与えるか考える ことができる。 ・環境問題の解決のために我々ができることを考え、実行するためにはどうするのか理解する。		①②③	
検定資格(時期) 諸費用(予定)	なし				
履修にあたって	日頃から国内外の情勢に興味を持ち、知らない場所がでてきたらすぐに地図帳を開く習慣を身につけよう。それだけで世界に対する意識は変わるはず。また、私たちが生きる地域や世界に広く興味を持ち、よりよい生活を送るためにはどうしたらよいかを考えよう。授業では、白地図作業があるので、色鉛筆を準備しておこう。				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		数学 I	単位	2	履修区分	必履修	・必修	・選択
対象学年・類型・コース		2年食品化学科・果樹園芸科						
使用教科書		東京書籍 改訂 新 数学 I						
目標とする生徒の将来像		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算力と、基本的な問題解決能力が身についている ・数学を利用して、身近な事象を考察する力が身についている 						
評価の観点		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査による評価80点分 ・授業の取り組む姿勢、課題提出、小テストの結果を総合的に考慮した20点分 						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価			
1 学期	第1回定期試験 (実施せず)	第4章 集合と論証 1節 集合と論証 1 集合 2 命題と集合 3 命題と証明	<ul style="list-style-type: none"> ・集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる ・命題や条件の意味を理解する ・命題の真偽を集合や反例を用いて判定することができる ・命題や条件の意味を理解する。命題の真偽を集合や反例を用いて判定することができる ・対偶などを用いて命題を証明しようとすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合の知識や基本事項が理解できているか ・定期試験 ・課題 				
	第2回定期試験							
2 学期	第3回定期試験 (実施せず)	第5章 データの分析 1節 データの分析 1 データの度数分布表 2 代表値 3 散らばり具合を表す数値 4 分散と標準偏差 5 相関関係 6 相関係数	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な統計において、代表値の意味を理解することができる ・箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる ・偏差の意味を理解し、求めることができる ・進学、就職を考えた数学の総合問題演習で基本的な式の四則演算ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なデータを通して、代表値や分散の知識や基本事項が理解でき、データを分析しようとしているか ・式の計算が身についているか ・定期試験 ・課題 				
	第4回定期試験							
3 学期	第5回定期試験	学び直し復習	<ul style="list-style-type: none"> ・進学、就職を考えた数学の総合問題演習で、割合や方程式、グラフの問題などの問題を解くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の算数から、数学 I の範囲までの基本的な事項が理解できているか ・定期試験 ・課題 				
検定資格(時期)		数学検定(準2級程度)						
履修にあたって		<p>数学に苦手意識を持っている生徒も多いと思います。後半は、ここまで学んできたことを振り返り、活用できる力を育てていきます。</p> <p>学び直しもしながら進学や就職につながる演習に取り組みます。一つ一つ丁寧に理解しながら進めていくことが大切です。</p>						

教科・科目	理科・化学基礎	単位数	2	必修
学年・系列・コース	2年食品化学科			
使用教科書	改訂 新編化学基礎	副教材	ニューアチーブ化学基礎	
目標とする生徒の将来像	日常生活や社会との関連を図りながら化学への関心を高め、探究活動を行い、学習内容を深めるとともに、化学的に探究する能力を高めることのできる生徒。			
評価の観点	①関心・意欲・態度:授業や実験に意欲的に取り組み、化学の法則性を追求する姿勢。 ②科学的な思考・表現:実験や観察から科学性・法則性を見だし、考え、生徒自身の言葉で表現を行う。 ③実験・観察の技能:実験や観察を、定められた方法で正しく実施し、目的に沿った結果を導く能力。 ④知識・理解:実験や観察より導かれる理論や原理を理解し、習得する能力。			

学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1学期	第1回定期考査	第1章 物質の構成 1節 物質の探究	・物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されることを学習する。また、物質の三態変化が熱運動の激しさが変わることによっておこることを理解する。	① 授業態度・提出物 25 ② 実験 10 ② 定期考査 15 ③ 実験 15 ③ 定期考査 10 ④ 定期考査 20 ④ プリント 5	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	第2回定期考査	2節 物質の構成粒子	・原子の構造について理解する ・元素の周期律を理解し、周期表の成り立ちについて学習する。	① 授業態度・提出物 25 ② 実験 10 ② 定期考査 15 ③ 実験 15 ③ 定期考査 10 ④ 定期考査 20 ④ プリント 5	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
2学期	第3回定期考査	2章 物質と化学結合 1節イオンとイオン結合 2節 分子と共有結合 3節 金属と金属結合	・イオンの生成について学習し、イオン結合、イオン結晶、イオン結晶の利用を理解する。 ・分子の形成について学習し、分子からできる物質、さらに分子結晶、共有結晶について理解する。また、分子からなる物質の利用についても学習する ・金属結合、金属結晶について理解し、金属の利用を学習する。	① 授業態度・提出物 25 ② 実験 10 ② 定期考査 15 ③ 実験 15 ③ 定期考査 10 ④ 定期考査 20 ④ プリント 5	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	第4回定期考査	3章 物質の変化 1節 物質と化学反応式	・元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 ・物質とその応用を理解する。 ・物質の溶解と濃度について学習する。	① 授業態度・提出物 25 ② 実験 10 ② 定期考査 15 ③ 実験 15 ③ 定期考査 10 ④ 定期考査 20 ④ プリント 5	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
3学期	第5回定期考査	2節 酸と塩基の反応	・酸と塩基の定義を理解する。 ・中和を理解し、塩の種類を学習する。	① 授業態度・提出物 25 ② 実験 10 ② 定期考査 15 ③ 実験 15 ③ 定期考査 10 ④ 定期考査 20 ④ プリント 5	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
検定資格(時期)	特になし				
諸費用(予定)					
履修にあたって	本科目は、座学を中心にビデオや実験・観察を行う。理科の教科の本質として、実験や観察から分かったことを偏見無く考え、表現することが大切である。単に暗記に走らず、なぜこのような現象が起こるのか、その原理を追求してほしい。				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		保健体育・体育		単位	2	履修区分	○ 必修	・必修	・選択
対象学年・類型・コース		2年食品化学科							
使用教科書		なし							
目標とする生徒の将来像		<ul style="list-style-type: none"> ・時間やルールを厳守し、率先して与えられた役割を確実にこなそうとする、責任感のある生徒。 ・運動の技能や知識を身につけ、高めていくために努力を継続することができる生徒。 ・積極的に活動に参加し、自己表現や他者への配慮などのコミュニケーションをとろうとする、信頼できる生徒。 							
評価の観点		<p>①【関心・意欲・態度】 時間やルールを守ることや、仲間とともに積極的に活動へ参加しようとしているか。</p> <p>②【思考・判断】 技能の向上のために、工夫したり、仲間と協力したりしているか。</p> <p>③【技能】 自己の身体を思い通りに扱い、正確な技能が発揮できているか。</p> <p>④【知識・理解】 技能が向上するための身体動作や運動の特性を理解し、知識を理解しているか。</p>							
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価				
1 学期	第1回定期試験	・体づくり運動（体力を高める運動、集合、整頓、列の増減、集団としての行動）	・基礎的な運動能力を身につける ・大きな声を出すとともに、迅速に集団としての協調的な動きができるようになる。	①観察 ②観察 ③テスト ④観察	A B C A B C A B C A B C				
	第2回定期試験	・ソフトボール（男子） ・バレー（女子）	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C				
2 学期	第3回定期試験	・ペース走	・自己に適したペースを維持して走ったり、ペースの変化に対応して走ったりする。徐々に記録を向上させる努力をする。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C				
	第4回定期試験	・体づくり運動（体力を高める運動、体ほぐしの運動） ・バスケ（男子） ・サッカー（女子）	・体づくり運動 体動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力向上をはかる。 ・バスケ、サッカー 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C				
3 学期	第5回定期試験	・バスケ（男子） ・サッカー（女子） ・体育理論	・バスケ、サッカー 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。 ・体育理論 生涯豊かなスポーツライフを送る上で必要となるスポーツに関する科学的知識を身につける。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C				
検定資格(時期)		なし							
諸費用(予定)		なし							
履修にあたって		チャイム前には整列をし、大きな声で挨拶・体操をすることで体育の授業は始まります。お互いに100%で授業に臨みましょう。							

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		保健体育・保健		単位	1	履修区分	○ 必修 ・必修・選択
対象学年・類型・コース		2年食品化学科					
使用教科書		現代高等保健体育・現代高等保健体育ノート					
目標とする生徒の将来像		<ul style="list-style-type: none"> 健康問題に対して、課題解決をするために、自ら考え、発表したり記述したりできる生徒。 生涯にわたって健康を保持増進することができる知識を身につけ、それを活用することができる生徒。 					
評価の観点		①【 関心・意欲・態度 】 健康問題に対し、興味・関心を持ち、個人であるいは仲間とともに積極的に課題解決をしようとしているか。 ②【 思考・判断 】 健康問題を解決するために、個人であるいは仲間とともに工夫したり、協力したりし、考えを見いだしているか。 ③【 知識・理解 】 健康問題やそれを解決するための知識を理解し、発言したり記述したりしているか。					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付きたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価		
1 学期	第2回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 思春期と健康 性意識と性行動の健康 結婚生活と健康 妊娠・出産と健康 家族計画と人工妊娠中絶 加齢と健康 高齢者のための社会的取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 男女の体のしくみや性意識の違、結婚生活、高齢者の身体や社会的対策について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。 	①観察 ②観察 ③テスト	A B C A B C A B C		
2 学期	第4回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 保険制度とその活用 医療制度とその活用 医薬品と健康 さまざまな保健活動や対策・大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚染と健康 健康被害の防止と環境対策 	<ul style="list-style-type: none"> 医療・保険制度や環境汚染について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。 	①観察 ②観察 ③テスト	A B C A B C A B C		
3 学期	第5回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 環境衛生活動のしくみと働き 食品衛生活動のしくみと働き 食品と環境の保健と私たち 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活 	<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全衛生面での対策、働くことの意義や労働問題について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。 	①観察 ②観察 ③テスト	A B C A B C A B C		
検定資格(時期)		なし					
履修にあたって		現在や将来の日常生活をよりよく生活をしていくために必要な内容を学習します。発言やグループワークなども積極的にを行い、主体的に授業に臨みましょう。					

平成 30 年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		コミュニケーション英語 I	単位	2	履修区分	履修
対象学年・類型・コース		2年農業科				
使用教科書		VISTA I				
目標とする生徒の将来像		英語の文化における知識や考え方、世界の出来事、日本の状況を理解する 基本的な英語を使って、簡単な話を理解したり、聞き取ることができる 基本的な英語を使って、簡単な考えを書いたり、相手に伝えることができる				
評価の観点		①定期試験 ②授業小テスト ③授業活動への参加状況 ④英単語テスト ⑤標準考査 ⑥提出物				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学期	第1回定期試験	Lesson7 Machu Picchu	テーマ：世界遺産のマチュピチについて時制に注意しながら文書を読むことができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
	第2回定期試験	Lesson8 Motalta and Landmines	ゾウのモタラの話を通して人間の愚かな振る舞いが引き起こした出来事について読み取ることができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
2 学期	第3回定期試験	Lesson 9 Dick Bruna	ミッフィーの作者ディク・ブルーナの特徴と社会的役割についての文を関係代名詞に注意しながら読み取ることができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
	第4回定期試験	Lesson10 Tsuji, the Great Pianist	関係副詞や形式主語を用いた文章を読み取ることができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
3 学期	第5回定期試験	Lesson11 Ideas from Nature	分詞構文を理解し、読み手や聞き手の注意を引く表現ができるようにする。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
	第5回定期試験	Lesson12 Steve Jobs	仮定法過去を用いた文章を理解したり、自分の考えなどを述べることができるようにする。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)		実用英語技能検定 年間3回(6月、10月、1月) 3級(3400円)、準2級(4800円)、2級(5400円)				
履修にあたって		毎時間の授業に、必ず辞書を持参すること。				

平成 30 年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	英語表現 I	単位	1	履修区分	履修
対象学年・類型・コース	2年農業科				
使用教科書	Be English Expression 1 Standard				
目標とする生徒の将来像	言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うと共に、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。				
評価の観点	①定期試験 ②授業小テスト ③授業活動への参加状況 ④ハンコカード ⑤提出物				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1 学期	第1回定期試験	Lesson 5	・能力・可能・意志・依頼を表す助動詞を理解し、それらを活用した表現活動ができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物 ・ハンコカード	
	第2回定期試験	Lesson 6	・許可・義務・後悔や非難を表す助動詞を理解し、それらを活用した表現活動ができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物 ・ハンコカード	
2 学期	第3回定期試験	Lesson 7 Lesson 8	・確信・推測・推量を表す助動詞を理解し、それらを活用した表現活動ができる。 ・受動態について理解し、表現活動ができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物 ・ハンコカード	
	第4回定期試験	Lesson 9	・SV00、SV0Cの文型を理解し、それらを活用した表現活動ができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物 ・ハンコカード	
3 学期	第5回定期試験	Lesson 10 Lesson 11	・不定詞について理解し、文章を書いたり、発表する等の表現活動ができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物 ・ハンコカード	
	検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)	実用英語技能検定 年間3回(6月、10月、1月) 3級(3400円)、準2級(4800円)、2級(5400円)			
	履修にあたって	・毎時間の授業に、必ず辞書を持参すること。 ・授業内ではジェラルディーン先生との活動もあります。			

平成 30 年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	家庭・家庭基礎	単位	2	履修区分	必履修・選択
対象学年・類型・コース	2年・食品化学科				
使用教科書	新家庭基礎 未来へつなぐパートナーシップ				
目標とする 生徒の将来像	人の一生、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、食生活、衣生活、住生活、消費生活、環境などに関する知識と技術を総合的に習得し、生活における課題を見つけ、自ら解決する力を身につけるとともに、実践的な学習を通して、家庭生活の充実向上をめざし、実現できる力をつけます。				
評価の観点	<p>【関心・意欲・態度】生活に関心をもっているか。意欲的、積極的に課題解決しようとしているか。</p> <p>【思考・判断・表現】家庭や地域の生活について見直し、課題をみつけ、その解決を目指して、学んだ知識・技術を生かしたいいくつかの方法を比較検討し、意思決定をするなど工夫し創造しているか。まとめて表現できる技術などの技術を応用発展させ、その成果を適切に表現しているか。</p> <p>【技能】家庭や地域の生活に関する基礎的・基本的な技術を習得しているか。調査・観察などの技術を身につけているか。</p> <p>【知識・理解】人間の発達と生活の営みとのかかわり、家族・家庭生活の意義、家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な知識などについて、断片的ではなく実際の生活の充実向上に役立つよう総合的に理解しているか。</p>				
学期	期間	単元・教材名	主たる目標	評価の観点	
1 学期	第1回定期試験	1章人と関わって生きる 生き方・子どもを知る	人の一生を生涯発達の視点で捉える。共に支え合って生活する重要性を理解する。	【知・理】 【関・意・態】	
		2章衣生活を作る 関わり、素材・管理・環境	衣生活の変化、現状や問題点を把握し、自らの衣生活と結びつけて学ぶ。	【知・理】 【関・意・態】	
	第2回定期試験	生活・発達・親になる 私たちの食生活	子どもを産み育てることの意義を知る。より良い食生活について考える。	【知・理】 【思・判・表】	
		全ての人が快適な衣生活 衣服の形・デザイン・実習	エプロン製作を通じて裁縫道具・ミシの扱い方、ボタン付け等ができるようにする。	【関・意・態】 【技】	
2 学期	第3回定期試験	1章食生活をつくる 栄養と食品の関わり	健康で安全な食生活を営むために必要な栄養素の基本的知識を習得する。	【知・理】 【関・意・態】	
		3章住生活を作る 関わり・計画・環境	住宅の種類や住空間の構成について理解し、ライフスタイルにあった住居の選択ができる	【知・理】 【思・判・表】	
	第4回定期試験	1章食生活を作る 食品の選び方と調理	食品の栄養的特徴と調理上の性質を理解し、基本的な技術と知識を習得する。	【関・意・態】 【技】	
		住居平面図 これからの住まい	生活行為と住空間の種類、広さ、配置などの基本的な考え方を知り、平面図を作成する	【関・意・態】 【技】	
3 学期	第5回定期試験	3章高齢者とのかかわる	高齢期の特徴と高齢社会の課題について理解する。地域社会での役割について考える。	【知・理】 【関・意・態】	
		4章社会と関わる	自らも消費者であることを理解し、消費に関する正しい情報を得られる力を身に付ける	【知・理】 【思・判・表】	
		3編消費者として自立する			
検定資格(時期)	全国高等学校家庭科食物調理技術検定4級(前期7月・600円)				
・ 諸費用(予定)	前期で不合格だった場合、希望者は後期試験(後期1月・600円)受験可能 次年度、食文化 選択者は3級受験予定				
履修にあたって	<p>・2単位の授業を1単位ずつ教科書も分けて2人の教員で担当します。</p> <p>・講義、調理・被服製作実習、体験学習、調査・研究、ホームプロジェクトなどの学習を通して、社会のさまざまな現象についてより深い理解と関心を高め、生活に生きて働く力をつけていきたいと思えます。</p> <p>・授業は、みなさんが主役です。自分の意見をしっかりもち、仲間の意見には耳を傾け、真面目に主体的に取り組みましょう。発展学習にも積極的に挑戦し取り組みましょう。</p>				

教科・科目	農業・食品化学科課題研究	単位数	2	必修	必修	選択
学年・系列・コース	2, 3学年					
使用教科書	農業と環境(実教)			食品製造・食品化学・微生物基礎(実教)		
目標とする生徒の将来像	農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。また、研究成果を発表できるようなプレゼンテーション能力を育てる。					
評価の観点	【関心・意欲・態度】研究内容について関心を持ち、自発的・主体的・意欲的に考え、実践できる 【思考・判断・表現】学習した事柄を利用・応用し、課題解決の観点から考え、判断できる。 【技能】課題解決のための正しい技能を身に付けており、その結果を的確に表現することができる。 【知識・理解】課題解決に関する知識を身に付け、それをもとに工夫し、創造することができる。課題学習の意義を理解している。					

学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1 学期	第2 回定期 考査	テーマの決定 年間実施計画の作成 文献調査及び実験実習	課題解決のための計画が立てられる。 計画発表ができる。 文献調査やインターネット調査を計画的に行える。 協力して文献調査及び実験実習に取り組める。 得られたデータを正確に記録できる。 実験実習の結果を適切に処理し、更なる課題を見つけることができる。 研究テーマに沿って、課題解決が適切にできる。 設定した課題の解決ができたか、できない場合は新たな課題解決方法を考えられる。 実験の結果をまとめることができる。	食品化学科の学習内容から課題の設定ができる。 課題解決のための計画が立てられる。 計画のとおり実験ができる。 実験の結果をまとめることができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
2 学期	第4 回定期 考査	研究のまとめ・新たな課題の設定 中間発表会 研究の続き 文献調査および実験実習 研究のまとめ 科内発表準備	実験の結果をまとめることができる。 新たな課題解決のための計画立案できる。 実験の結果をまとめることができる。 発表の資料が作成できる。	設定した課題の解決ができたか、できない場合は新たな課題解決方法を考えられる。 実験の結果をまとめることができる。 発表の資料が作成できる。	A・B・C A・B・C A・B・C
3 学期	第5 回定期 考査	校内発表 研究集録原稿作成 次年度に向けての準備	わかりやすく研究発表ができる。 研究成果を論文形式にまとめることができる。 次年度に向けて、更なる課題に気づくことができる。	わかりやすく研究発表ができる。 研究成果を収録にまとめることができ、次年度に向けて、更なる課題に気づくことができる。	A・B・C A・B・C A・B・C

検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)	
履修にあたって	①受動的な学習から能動的な学習への転換をして下さい。 ・「予習、実習、復習」のノート展開、・魅力ある自分ノート ②共同実習室利用する生徒としての実践 ・5分前行動、・5S「整理・整頓・清潔・清掃・躰」の取り組み

教科・科目		農業・農業情報処理	単位数	1	必修・必修・選択
学年・系列・コース		2学年			
使用教科書		実教出版 農業情報処理(農業303)	副教材	30時間でマスターWord&Excel(実教出版)	
目標とする生徒の将来像		情報モラルや情報機器に関して基礎的な知識技術を学ぶ。ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトを学習して、2. 3年次の専門科目で応用できるようにする。プロジェクト発表に向けて相手にわかりやすく明確に伝わるようなプレゼンテーション技術を身につける。			
評価の観点		<p>【関心・意欲・態度】情報の収集・分析・統合・加工・発信に関する課題の探求に意欲的に取り組むとともにその課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。</p> <p>【思考・判断】情報の収集・分析・統合・加工・発信に関する課題の探求に意欲的に取り組むとともにその課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。</p> <p>【技能】情報の収集・分析・統合・加工・発信するプロジェクトを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。</p> <p>【知識・理解】情報技術及び情報通信ネットワークの活用が環境保全や農林業の持続的発展に果たす意義や役割を理解している。</p>			
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1学期	第1回定期考査	第3章 コンピュータによる情報の活用 3. 日本語ワードプロセッサの利用	<ul style="list-style-type: none"> 日本語ワードプロセッサの特徴と機能を理解できる。 日本語ワードプロセッサの発展的な利用方をみにつける。 日本語ワープロ検定の3級の速度、文書の合格範囲で打つことができる。 	ワープロ検定の実技試験 ペーパーテスト 授業態度の観察など 提出物(ノート・プリント)	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	第2回定期考査	第3章 コンピュータによる情報の活用 3. 日本語ワードプロセッサの利用	<ul style="list-style-type: none"> 日本語ワードプロセッサの特徴と機能を理解できる。 日本語ワードプロセッサの発展的な利用方をみにつける。 日本語ワープロ検定の3級の速度、文書の合格範囲で打つことができる。 	ワープロ検定の実技試験 ペーパーテスト 授業態度の観察など 提出物(ノート・プリント)	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
2学期	第3回定期考査	第3章 コンピュータによる情報の活用 4. 計算ソフトウェアの利用	<ul style="list-style-type: none"> 計算ソフトウェアの特徴と機能を理解できる。 計算ソフトウェアの利用方法を身につける。 様々な関数を用いて表やグラフを効果的に使用することができる。 情報処理技能検定試験の3級の合格範囲でパソコンを打つことができる。 	情報処理技能検定試験の実技試験 ペーパーテスト 授業態度の観察など 提出物(ノート・プリント)	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	第4回定期考査	第3章 コンピュータによる情報の活用 4. 計算ソフトウェアの利用	<ul style="list-style-type: none"> 計算ソフトウェアの特徴と機能を理解できる。 計算ソフトウェアの利用方法を身につける。 様々な関数を用いて表やグラフを効果的に使用することができる。 情報処理技能検定試験の3級の合格範囲でパソコンを打つことができる。 	情報処理技能検定試験の実技試験 ペーパーテスト 授業態度の観察など 提出物(ノート・プリント)	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
3学期	第5回定期考査	第3章 コンピュータによる情報の活用 7. プレゼンテーションソフトウェアの利用 14. ウィン	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションソフトの特徴と機能を理解できる。 プレゼンテーションソフトの基本操作を身につけることができる。 プレゼンテーションソフトを利用し、相手に伝わるプレゼンを行うことができる。 	プレゼン発表 ペーパーテスト 授業態度の観察など 提出物(ノート・プリント)	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
検定資格(時期)・諸費用(予定)		○日本語ワープロ検定試験 平成30年7月1日、10月14日、12月2日 3級2000円、準2級2300円、2級2500円			
履修にあたって		日本語ワープロ検定3級を合格できるように取り組んでください。1単位なので家庭や放課後の学習をしっかりと行うようにしてください。農業クラブのプロジェクト発表に向けてパワーポイントやプレゼンについて学び、プロジェクト発表で県大会や関東大会へ出場できるようにしていく。			

教科・科目		農業・食品製造	単位数	3	(必修)・(必修)・選択
学年・系列・コース		2学年			
使用教科書		実教出版 食品製造(農業305)	副教材	微生物利用(農業 実教出版)	
目標とする生徒の将来像		食品製造に必要な知識と技術を習得するとともに、食品の特性と加工方法及び貯蔵の原理を理解し、品質と生産性の向上をはかる能力と態度を身につける。原材料としての豆類、野菜類、果実類の種類、物理的および化学的性質を理解し、加工特性や加工操作について実習を通して習得する。			
評価の観点		<p>【関心・意欲・態度】食品製造や加工の原理に興味関心を持ち、原材料の加工適性や食品特性に応じた食品の製造や貯蔵に意欲的に取り組む。</p> <p>【思考・判断・表現】原材料の加工適性や食品特性に応じた食品加工の方法を多面的に考察し、食品加工の方法に応じた機器の利用や品質管理を判断できる。</p> <p>【技能】原材料の処理、食品加工、製造用機器の取り扱いなど、食品の製造と貯蔵に関する基本的な技術を身に付け、適切に実施することができる。</p> <p>【知識・理解】食品加工、製造用機器の取り扱いなど、食品の製造と貯蔵に関する基本的な知識を身に付け、原材料の加工適性や食品特性と加工原理を理解するとともに品質管理や衛生管理の知識を理解している。</p>			
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1学期	第1回定期考査	第6章 農産物の加工 5. 果実類の加工	<ul style="list-style-type: none"> 果実の特性、加工原理を理解し、食品適正を考えて製造することができる。 ジャムの製造方法やゲル化の原理を理解しジャムの製造を行うことができる。 ジャム製造に必要な計算ができる。 果実を利用した加工食品の種類とその製造方法を習得する。 	作業 (正確さ・早さ・計画性) 実習の態度 (正確さ・手際・気配り) 実習記録(ノート・プリント) ペーパーテスト 授業態度の観察など	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	第2回定期考査	第6章 農産物の加工 5. 果実類の加工	<ul style="list-style-type: none"> 原材料の違いによりジャムの製造方法を変えて作ることができる。 果実のシラップ漬けの製造原理や製造方法を理解し、製造を行うことができる。 果実飲料の製造原理や製造方法を理解し製造を行うことができる。 桃缶詰製造に必要な計算ができる。 シラップの糖濃度の計算を行うことができる。 	作業 (正確さ・早さ・計画性) 実習記録(ノート・プリント) ペーパーテスト 授業態度の観察など 実習の態度 (正確さ・手際・気配り)	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
2学期	第3回定期考査	第6章 農産物の加工 2. 豆類・種実類野加工 5. 果実類の加工	<ul style="list-style-type: none"> 原料の違いにより製造工程や製造方法が違いことを理解できる。 主な豆類の種類や利用方法を理解できる。 大豆の特徴と加工の仕組みを理解し豆腐・湯葉の製造を行うことができる。 	作業 (正確さ・早さ・計画性・理解) 実習記録(ノート・プリント) ペーパーテスト 授業態度の観察など 実習の態度 (正確さ・手際・気配り)	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	第4回定期考査	第6章 農産物の加工 2. 豆類・種実類野加工	<ul style="list-style-type: none"> フェスタに向けての準備を効率行えるように周りと協力して行うことができる。 食品を販売するときに注意点やお客さんに買ってもらえるように接客ができる。 味噌の種類や製造工程を知る。 味噌作りに必要な麴について理解し麴作りを行うことができる。 	作業(正確さ・早さ・習熟度・計画性・創造性) 自己評価文(ノート・テスト) 実習記録(ノート) 授業態度の観察など 実習の態度 (正確さ・手際・気配り)	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
3学期	第5回定期考査	第6章 農産物の加工 2. 豆類・種実類野加工	<ul style="list-style-type: none"> 味噌の特徴・加工の仕組みを理解し米味噌・麦味噌の製造を行うことができる。 発酵食品における微生物の役割を理解できる 原料や麴の量・種類の違いによって味噌の味や色の違いがあることを理解できる 	作業(正確さ・早さ・習熟度・計画性・創造性) 自己評価文(ノート・テスト) 実習記録(ノート) 授業態度の観察など 実習の態度 (正確さ・手際・気配り)	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)					
履修にあたって		野菜・果実類の加工を中心に取り上げ、その特性を理解してください。野菜・果実類については、良質の製品を生産するために必要な、原材料の物理的及び化学的性質を十分理解し、原料と関係づけて製造に必要な操作について実験実習を通じて学ぶように。また他の科目と連携をとり食品科学の基礎的知識を習得していただく。食品衛生面に関しても1年次に学んだことを活かしながら、製造実習を行えるように。			

教科・科目	農業「食品化学」	単位数	必修・必修・選択
学年・系列・コース	2 学年 食品化学科		
使用教科書	実教 食品化学	副教材	自作プリント等
目標とする生徒の将来像	・食品の分析と検査に必要な知識と技術を習得する。特に三大栄養素の基礎的定性及び定量実験の原理・操作を実験をとおして理解する。さらに、食品の成分と栄養を理解し、食品製造及び農業の各分野で応用する能力と態度を養う。 ・2時間は実験室でグループ別に、1時間は教室で全員授業。		
評価の観点	(関心意欲態度) 化学の原理や法則、化学実験に関心を持ち、食品化学を学ぶ意欲・態度を身に付けている。 (思考判断表現) それぞれの実験の目的、実験の方法などから実験の計画を立てることができる。 (技能) 化学実験の基本的な方法を理解し、実験を安全に行うことができる。 (知識理解) 化学の原理、基本的な実験の方法を知識として習得し、理解している。		

学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1 学期	第 1 回定期考査	オリエンテーション 食品の成分 食品中の有機酸	1年次の復習・授業の進め方 試薬の調整ができる 中和滴定によるヨーグルト中の乳酸の定量ができる 中和滴定による果汁飲料のクエン酸の定量ができる	実験実習への取り組み ノートのまとめ レポート作成 出席 服装	ABC ABC ABC ABC
	第 2 回定期考査	炭水化物	炭水化物とその利用について理解する 還元糖の各種定性試験ができる 還元糖の定量(ソモギー変法)ができる	実験実習への取り組み ノートのまとめ レポート作成 出席 服装	ABC ABC ABC ABC
2 学期	第 3 回定期考査	タンパク質	タンパク質の利用について理解する タンパク質の構造と性質がわかる アミノ酸・タンパク質の定性試験ができる アミノ態窒素の定量(ホルモル滴定)ができる タンパク質の定量(セミマイクロゲル法)ができる	実験実習への取り組み ノートのまとめ レポート作成 出席 服装	ABC ABC ABC ABC
	第 4 回定期考査	脂質	脂質の構造と性質を理解する 脂質の定量(ソックスレーの抽出法)ができる 脂質の酸価の定量ができる 脂質のヨウ素価の定量ができる	実験実習への取り組み ノートのまとめ レポート作成 出席 服装	ABC ABC ABC ABC
3 学期	第 5 回定期考査	脂質	脂質のケン化価の定量ができる 脂質の過酸化価の定量ができる	実験実習への取り組み ノートのまとめ レポート作成 出席 服装	ABC ABC ABC ABC
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)		特になし。			
履修にあたって		必ず白衣を用意し、ゴーグルや手袋を着用して、飛散ややけどを負わぬよう、安全な実験に努めること。			

教科・科目		食品化学科・微生物利用	単位数	3	必修	必修	選択
学年・系列・コース		2学年・食品化学科					
使用教科書		副教材 実教出版 微生物利用					
目標とする生徒の将来像		食品に関連する微生物の利用に必要な基礎的知識と技術を習得させ、微生物の特性や培養方法について理解させる。自然界から細菌、酵母およびかびを分離・培養し、その形態、特徴および微生物の持つ機能を実験をとおして理解させ、食品製造や食品化学に応用できる態度と能力を育成する。					
評価の観点		<p>関心意欲態度: 微生物実験の基礎について興味・関心を持ち、分離・培養、観察について積極的に取り組む姿勢を身につけている。</p> <p>思考判断表現: 実験において正しい器具の使用方法ができ、結果のとり扱いについて正確に考察することができる。</p> <p>技能: 実験に安全に正しく取り組む技能を身につけている。コンタミネーションの防止のため意識して実験に取り組む技能を身につけている。</p> <p>知識理解: 微生物実験の基礎、分離培養法、培地の作製法、微生物の観察法について正しい知識を身につけ理解している。</p>					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力		主たる評価の観点・方法		自己評価
1学期	第1回定期考査	第4章 微生物観察と取扱 1 微生物実験の基本 実験を始めるにあたって 実験器具・機器の種類と扱 第1章 人間生活と微生物 生命の誕生と生物進化 微生物とは	実験室の使い方。実験機器器具の扱い方など 実験をするにあたっての基本を理解する。 実験機器・器具の使い方を理解し、安全でに を進めていく能力を養う。 地球誕生～微生物誕生までについて理解する。 微生物の特徴について学ぶ		実験への取り組み 衛生管理(洗浄・片つけ) ノートのまとめ レポート作成 出席 服装		
	第2回定期考査	第4章 微生物観察と取扱 1 微生物実験の基本 殺菌・除菌方法 培地の種類と調整法 空中落下微生物培養等 第1章 人間生活と微生物 微生物研究の歴史と発展	実験操作における殺菌除菌方法を学ぶ 培地の種類と調整法について、方法を理解す 天然培地・合成培地の調整方法を理解し 正しい培地調整を行うことができる。 簡易な実験を通じて微生物を培養し、肉眼 の観察につなげることができる 微生物の発見・研究の歴史について理解(座学)		実験への取り組み 衛生管理(洗浄・片つけ) ノートのまとめ レポート作成 出席 服装		
2学期	第3回定期考査	第5章 カビの分離と培養 1 黒カビの分離培養観察 第4章 微生物観察と取扱 ① 光学顕微鏡使い方 第1章 人間生活と微生物 微生物研究の歴史と発展	光学顕微鏡の使い方をマスターし観察ができる 自然界よりカビを分離する方法を学ぶ。 分離したカビを正しい方法で移植培養保管操 ができる。 微生物の発見・研究の歴史について理解(座学)		実験への取り組み 衛生管理(洗浄・片つけ) ノートのまとめ レポート作成 出席 服装		
	第4回定期考査	第5章 カビの分離と培養 1 麹カビの分離培養観察 2 青カビの分離培養観察 第1章 人間生活と微生物 発酵腐敗・発酵食品 食中毒・経口感染症	光学顕微鏡の使い方をマスターし観察ができる 自然界よりカビを分離する方法を学ぶ。 分離したカビを正しい方法で移植培養保管操 ができる。 発酵と腐敗についてその違いを理解する。 食中毒や感染症について種類や予防法を学ぶ。		実験への取り組み 衛生管理(洗浄・片つけ) ノートのまとめ レポート作成 出席 服装		
3学期	第5回定期考査	第5章 カビの分離と培養 酵素生産カビの分離培養 第2章 微生物の種類と特徴 1 微生物の種類	カビが産生する酵素の働きを実験によって理解 発酵産業で応用されていることを実験を通じて 微生物に分類される酵母カビ細菌についてそ 特徴を理解する		実験への取り組み 衛生管理(洗浄・片つけ) ノートのまとめ レポート作成 出席 服装		
検定資格(時期)		微生物利用に関する資格取得は特になし					
諸費用(予定)							
履修にあたって		この実験では、自然界において肉眼では確認が困難な微生物を対象に実験を行います。自分たちが扱う微生物の他にも生活環境には様々な微生物が存在し、正確な実験を行うためにはそれらを正しく管理しなければなりません。 また有用な微生物がいる一方、病原菌や食中毒菌など有害微生物も存在します。実験を進めて行くにあたっては基本的な注意事項をしっかりと守ることが大切です。					